

# 2030 VISION

住友電工グループ  
2030  
ビジョン

グリーンな地球と安心・快適な暮らし

— その実現へ技術で挑戦し続けます —

Connect with Innovation

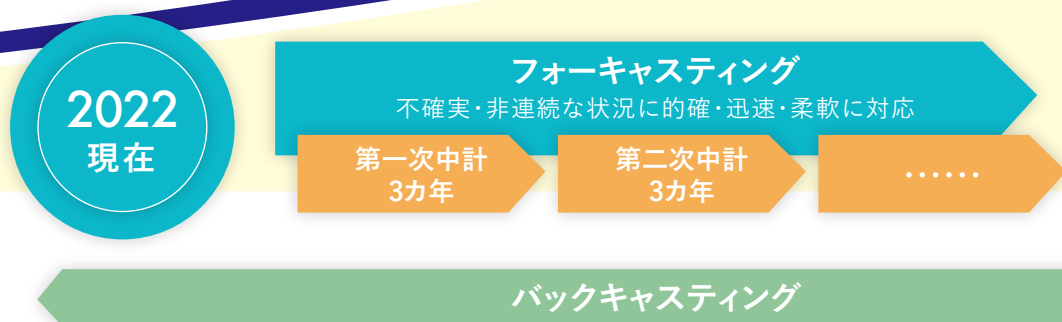


# Glorious Excellent

様々な社会変革が起こりつつある中でグループの目指す姿を示すため、  
2030年を節目とする長期ビジョンを策定いたしました。

また、不確実・非連続な経営環境に対し、2023年度から3カ年ごとに  
中期計画として具体的な事業計画を策定し、経営の舵を取ってまいります。

ステークホルダーの皆様のご理解のもと、グループが一体となり企業価値向上に取り組み、  
「Glorious Excellent Company」の企業像実現を目指してまいります。



## トップメッセージ

世界全体が、地球温暖化の進展や感染症の流行、  
自然災害や紛争などさまざまな困難に直面しています。

一方でGXやDX、CASEといった、社会・産業の大きな変革が加速しています。

このような変化に的確、迅速かつ柔軟に対応していくことが求められる中、

住友電工グループが目指す大きな方向性を示すため、

2030年を節目とする

長期ビジョン「住友電工グループ2030ビジョン」を策定しました。

当社グループは、「グリーンな地球と安心・快適な暮らし」の実現に向けて、  
これからも技術で挑戦し続けてまいります。

引き続き皆様のご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# Company

2030

目指す姿

ありたい将来像

**Glorious  
Excellent Company**

“Glorious”は「住友事業精神」と「住友電工グループ経営理念」という精神的基盤を具現化したあるべき姿、“Excellent”は具体的・定量的な事業目標達成の意を込めています



住友電気工業株式会社  
社長

**井上 治**

# 1



## 経営方針

- 基本思想(フィロソフィ)
- トップテクノロジー
- グローバルプレゼンス
- ダイバーシティ&インクルージョン
- サステナビリティ
- 存在価値(パーパス)

# 基本思想 (フィロソフィ)

連綿と引き継がれる「住友事業精神」と  
グループの「経営理念」を堅持し、  
「事業を通じて公益に資する」という経営哲学のもと、  
常に公益を重視し、  
ステークホルダーの皆様との共栄を図ってまいります。

## 住友事業精神

### 萬事入精

まず一人の人間として、何事に対しても  
誠心誠意を尽くす人であれ

### 信用確実

何よりも信用を重んじること、すなわち、  
常に相手の信頼に応えること

### 不趨浮利

常に公共の利益との一致を求め、  
浮利を追い、軽率、粗略に行動してはならない

住友で脈々と受け継がれている考え方

「技術の重視」、「人材の尊重」、「企画の遠大性」、「自利利他・公私一如」

## 住友電工グループ 経営理念

住友電工グループは

- 顧客の要望に応え、最も優れた製品・サービスを提供します
- 技術を創造し、変革を生み出し、絶えざる成長に努めます
- 社会的責任を自覚し、よりよい社会、環境づくりに貢献します
- 高い企業倫理を保持し、常に信頼される会社を目指します
- 自己実現を可能にする、生き生きとした企業風土を育みます

# トップテクノロジー

当社グループは、電線・ケーブル事業を礎に、  
素材やそれらを加工する様々な技術を  
連関する技術系譜として大樹のごとく進化させてきました。

これからも「トップテクノロジー」を追求し  
つなぐ・ささえる技術を進化させ  
グループの総合力とイノベーションによって  
グローバルな貢献を果たしてまいります。

電線・ケーブル



# グローバルプレゼンス

トップテクノロジーによる新たな価値の創造を通じて、  
グローバル市場の多様なニーズに応えてまいりました。

これからも  
グループを挙げたグローバルな  
事業活動の展開によって、  
世界のインフラ・産業の発展を  
支えてまいります。



イギリス-ベルギー間海底ケーブル

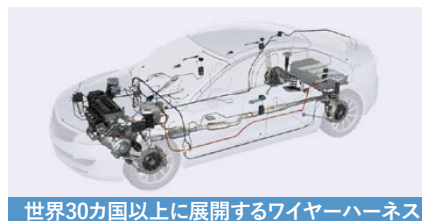
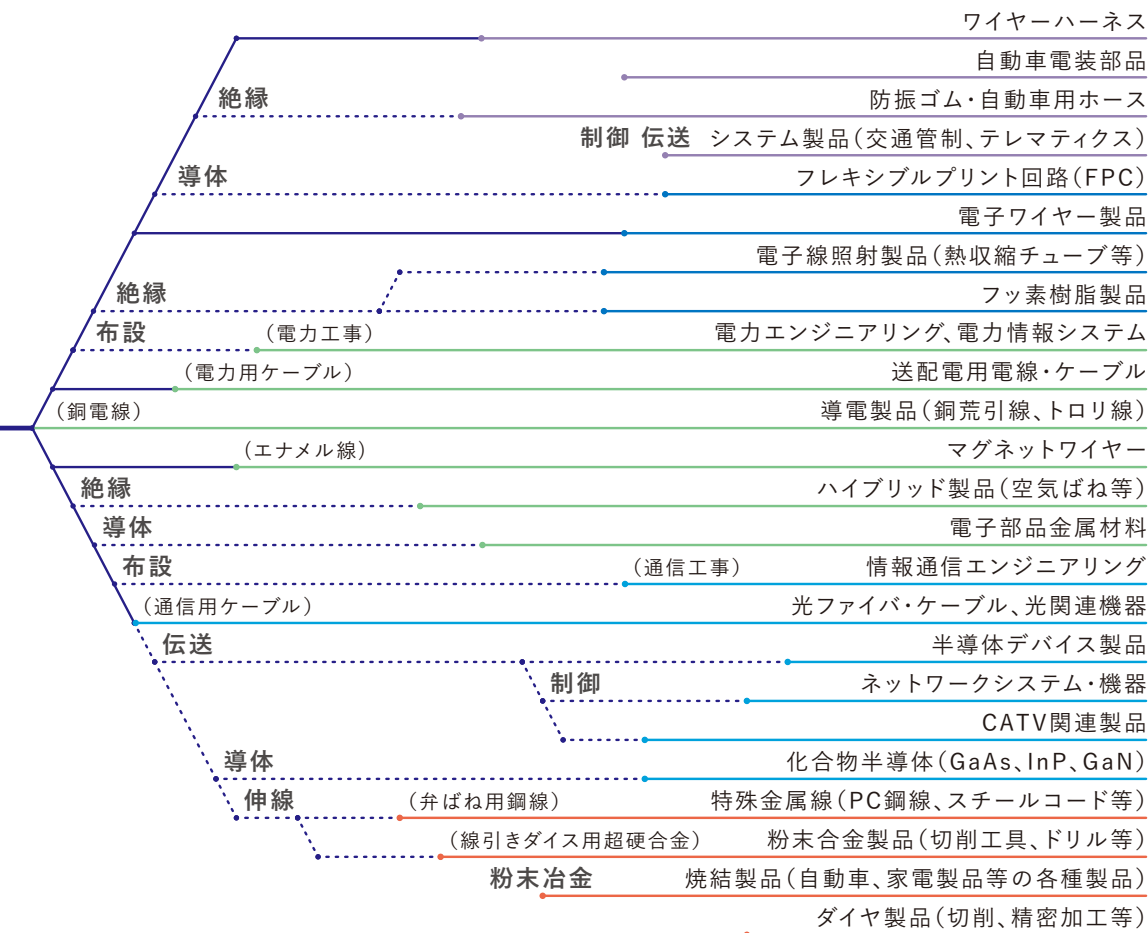


カンボジア・プノンペン 交通管制システム



ベトナム 橋梁用鋼材

# 技術で新たな価値を創造



# ダイバーシティ& インクルージョン

グローバルな事業活動は、世界各国各地域の400社を超える  
当社グループ約28万人の従業員によって支えられています。(2022年3月末現在)

これからもグループの多様な人材の個々の特性や能力を最大限に活かして  
トップテクノロジーの創出とともに、組織としての活力と競争力の強化に取り組めます。



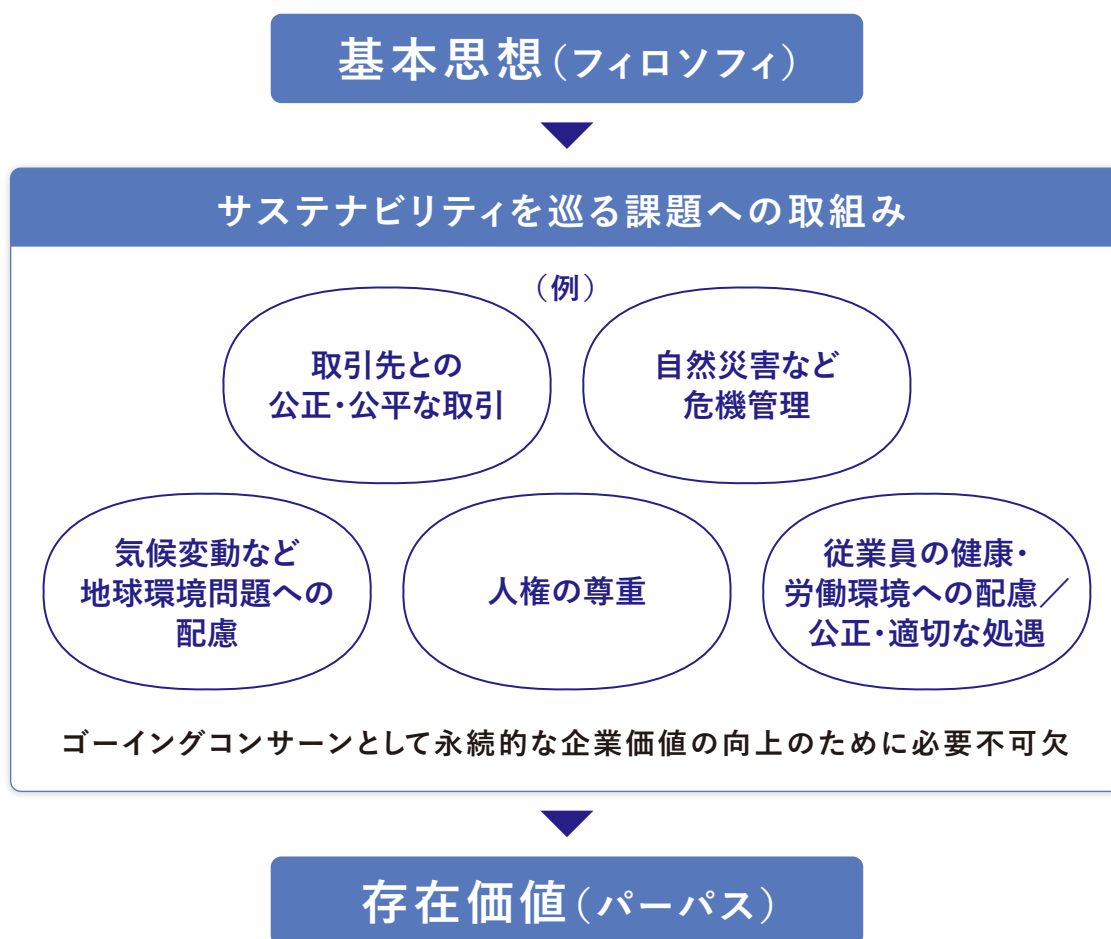


# サステナビリティ

感染症や自然災害、ブロック化など国際情勢の変貌等、  
当社グループのグローバルな事業活動とサプライチェーンに重大な影響をもたらす  
リスクが顕在化しています。

このようなリスクにも的確に対応しながら  
地球環境や人権の尊重、従業員への配慮、公正・公平な取引などを通じて  
これからも持続的な企業価値の向上に取り組めます。

## サステナビリティ経営に関する基本方針 (2022年4月制定)



# 存在価値(パーパス)

「公益を重視し、ステークホルダーの皆様との共栄を図る」  
という基本思想のもと、

トップテクノロジーを追求し、  
つなぐ・ささえる技術を  
イノベーションで進化させ、  
グループの総合力により、  
より良い社会の実現に貢献していく

このような当社グループの存在価値(パーパス)を  
これからも追求してまいります。

# 2

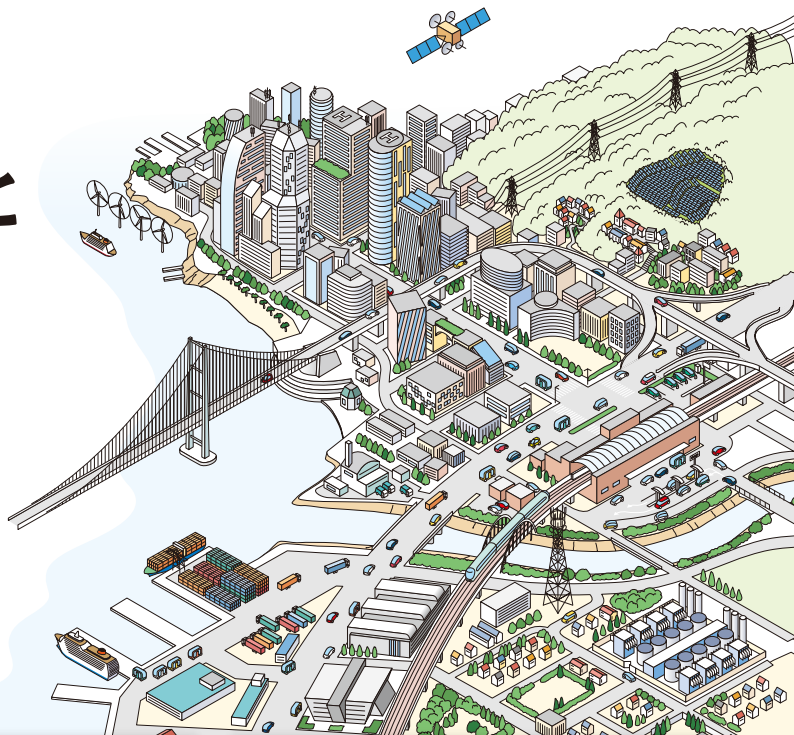


## 社会像と事業領域

- 2030年の社会像と実現したいこと
- 事業領域－注力分野

# 2030年の社会像と 実現したいこと

2030年に向けて持続可能な地球環境の実現がより重要になります。当社グループは「安心」「快適」な社会への貢献に加え、「グリーン」な環境社会の実現に、グループの総力を挙げて取り組んでまいります。



## 創業からの取組み

### 安心

「安心して暮らせる社会」のために、インフラ関連や産業を支える様々な製品の提供に取り組んでいます

耐久性 高強度

### 快適

「快適で住みやすい社会」のために、高機能で高性能な製品のグローバルな供給に取り組んでいます

高速 大容量

## さらに重視していきたいこと

### グリーン

「グリーンな環境社会」に向け、脱炭素をはじめとする関連事業に総力を挙げて取り組み、当社らしく貢献してまいります

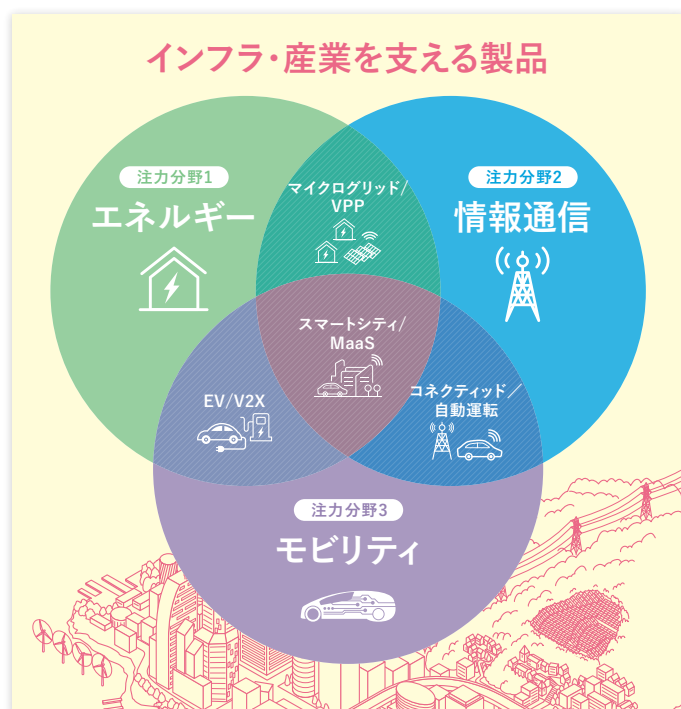
高効率 低損失



— 安心・快適な社会をいつまでも持続させるために、グリーンの実現に注力します

## 事業領域—注力分野

目指す社会像の実現に向けて、これからも幅広く「インフラや産業を支える製品・サービス」を提供してまいります。また、特に「エネルギー」「情報通信」「モビリティ」を3つの注力分野と位置づけ、いずれにも事業を展開し、技術知見がある当社グループは、それらが融合する分野も含めて、GXやDX、CASEといった社会変革におけるニーズを捉えて、グループの総合力でもって、市場の期待に応えてまいります。



# 3



## 事業の方向性

- エネルギー分野
- 情報通信分野
- モビリティ分野
- 注力3分野に貢献する高機能製品
- グリーン化への取組み

# エネルギー分野

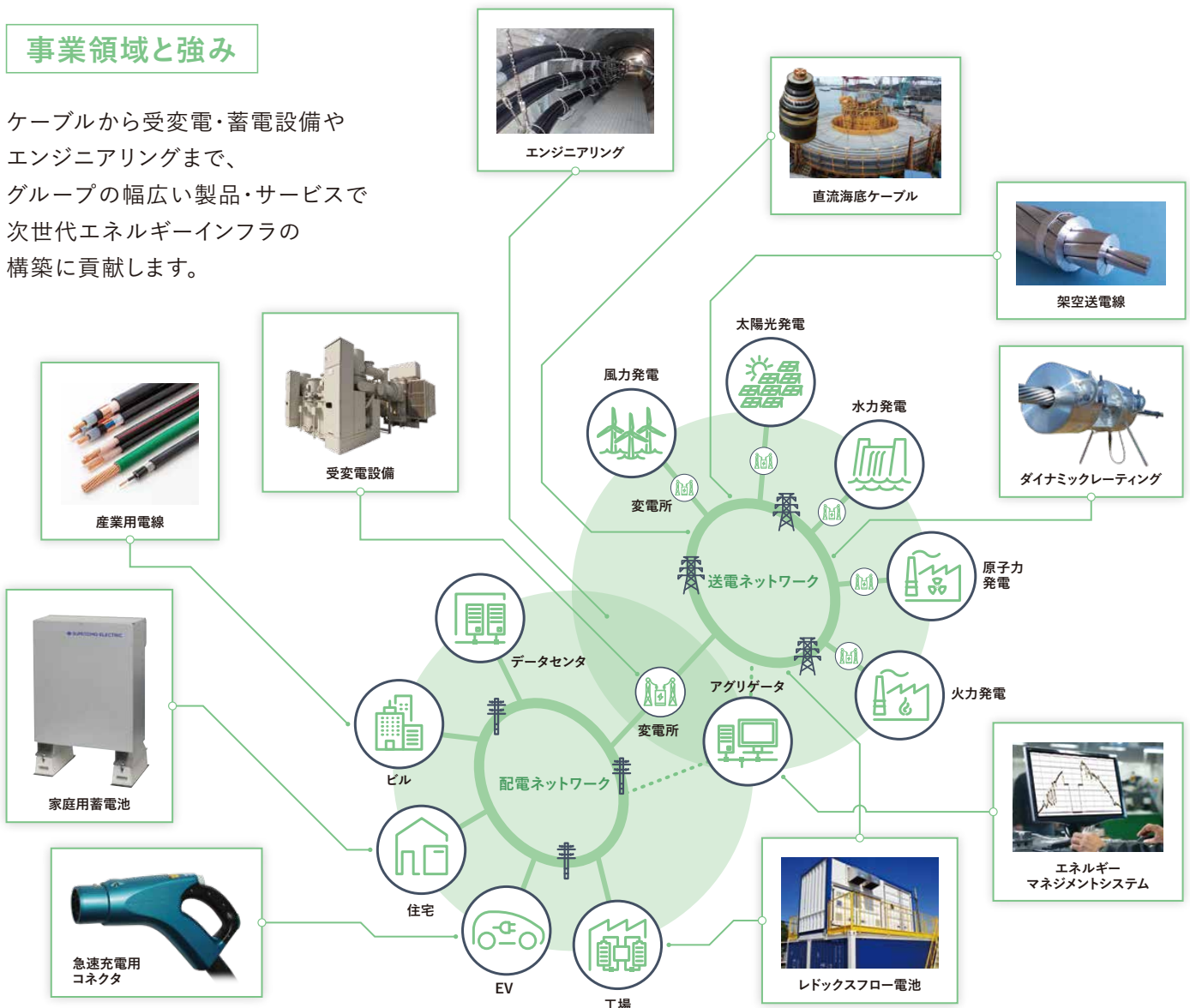
脱炭素社会に向けて再生可能エネルギーの導入が進み、電力系統の強化・効率化、需給バランスの調整に新しい技術が求められるようになります。

当社が考える2030年のエネルギー社会



## 事業領域と強み

ケーブルから受変電・蓄電設備やエンジニアリングまで、グループの幅広い製品・サービスで次世代エネルギーインフラの構築に貢献します。



## これからの事業環境

### 再生可能エネルギーの大量導入

太陽光や風力発電を導入する取組みがさらに進展

#### ● 発電と需要の遠隔化

→ 発電地と需要地が離れる自然エネルギーの導入により、効率的な長距離の直流送電網の構築が進展

#### ● 不安定な出力

→ 出力が自然条件に左右されるため、蓄電池等による需給バランスの調整ニーズが拡大

### 分散型電源の大量導入

太陽光発電や蓄電池、EV等の分散型電源大量導入により、電気の流れの双方向化、複雑化が進展

#### ● マイクログリッド

→ 太陽光発電、蓄電池、EV等の分散型電源の普及により本格化

#### ● ネットゼロ工場

→ 製造現場における省エネや電源の脱炭素化が加速

#### ● VPP※・デマンドレスポンス

→ 分散型電源と需要を統合制御するアグリゲータが出現

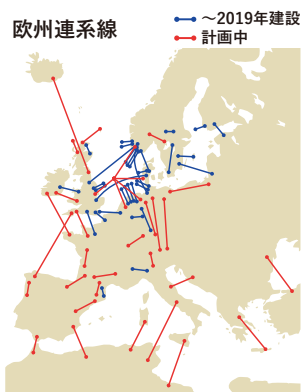
※VPP:バーチャルパワープラント(Virtual Power Plant)  
分散型電源の保有者もしくは第三者が、分散型電源を制御することで発電所と同等の機能を提供すること

## 2030年への挑戦

電力ケーブルの技術をさらに磨き、グローバルな系統強化に挑戦するとともに、需要家側の多様なニーズへのソリューション提供に挑戦します。

### 大容量・低損失な送電系統

電力ケーブルの技術力を活かし、広域融通や効率的な直流送電を実現



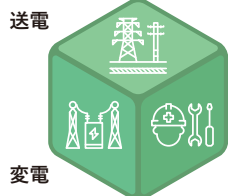
#### 独自の絶縁材料開発

- 優れた直流絶縁性能
- 高い環境安全性
- 高い耐熱性
- 極性反転性能

### 大規模風力発電に必要な系統接続

グループ一体でのソリューション提供により、再生可能エネルギーの大量導入に貢献

#### 送変電パッケージ

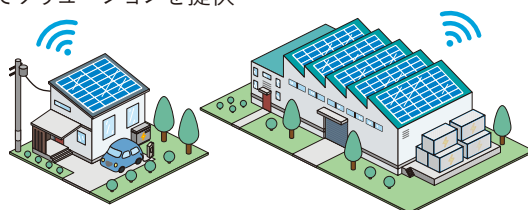


#### ダイナミックケーブル



### 電力需給の多様化

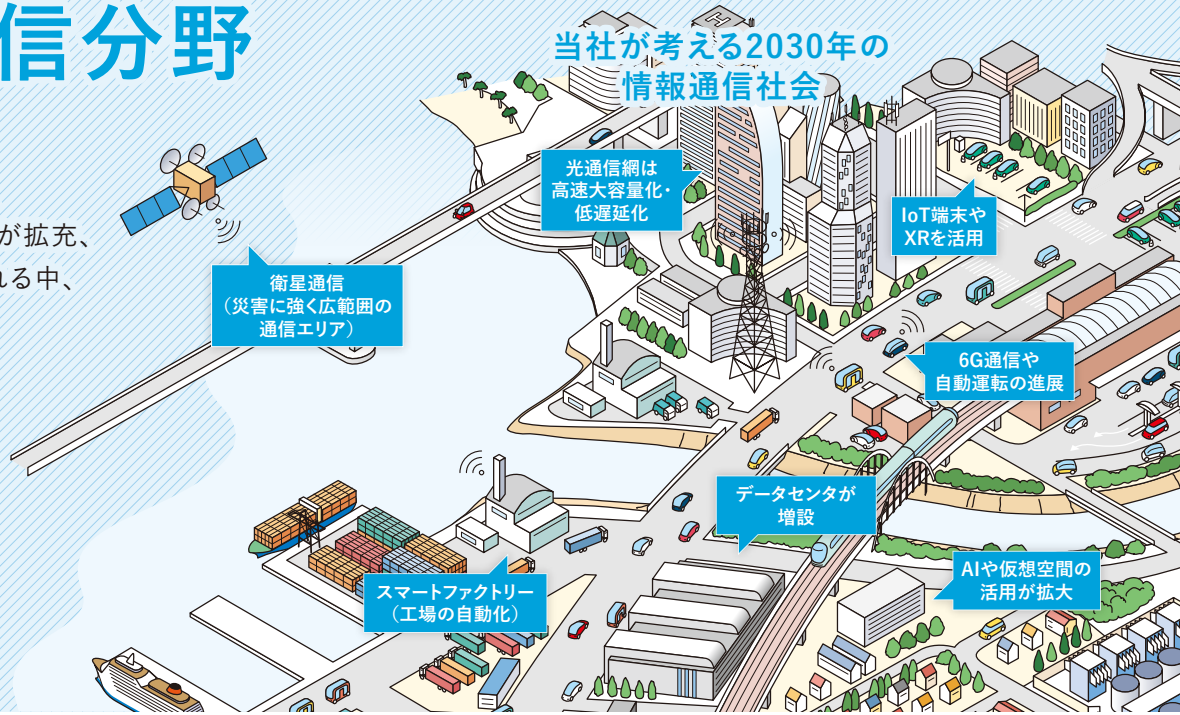
分散型電源の導入による電力需給の多様化に向けて、エネルギー・情報通信・モビリティで培った技術の総合力でソリューションを提供



- AI/IoTによる需給調整・電圧変動対策
- 素材～機器システムの総合力

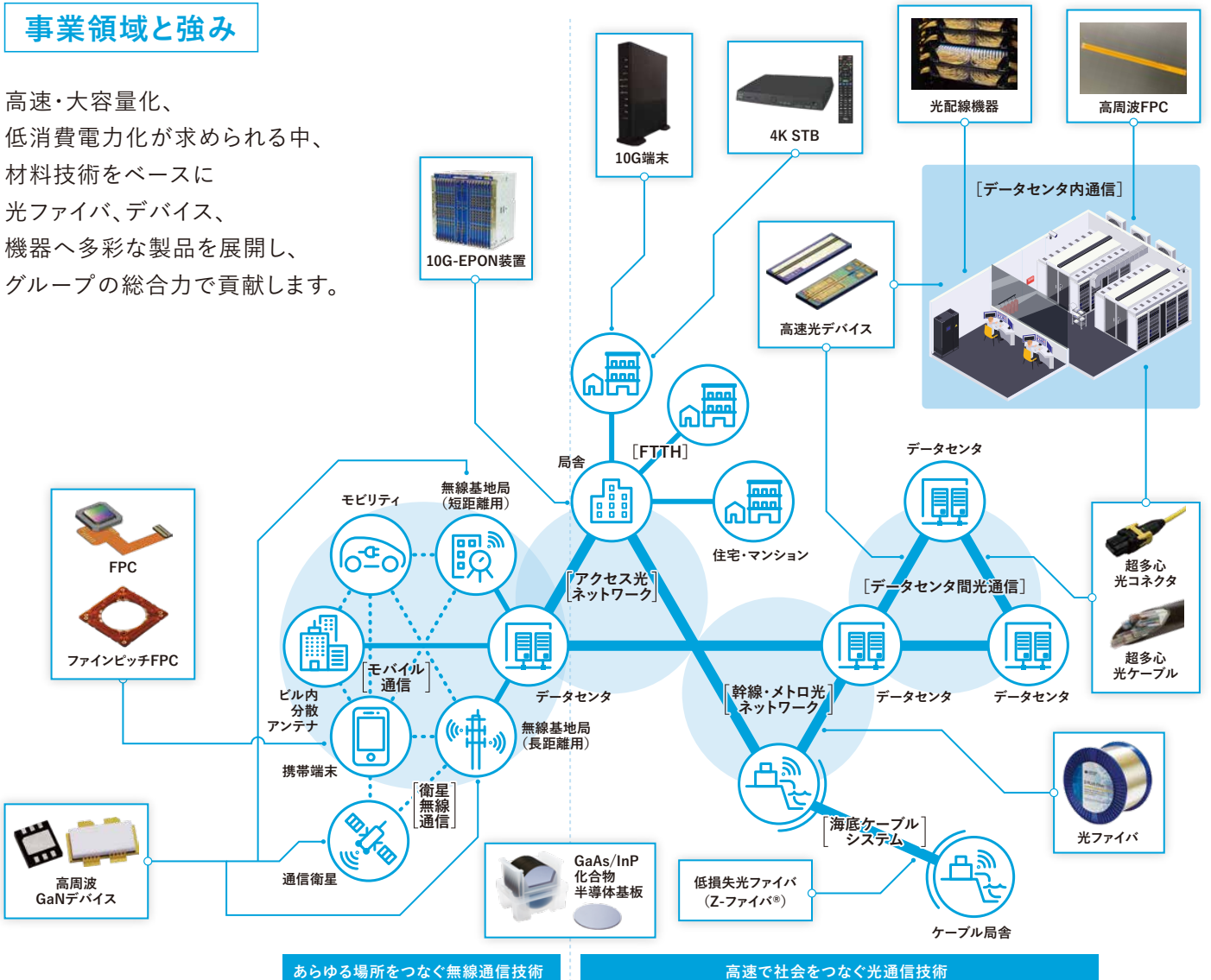
# 情報通信分野

データ通信はさらに  
高速・大容量化が進み、  
無線・光ネットワーク網が拡充、  
データセンタが増設される中、  
低消費電力化の  
ニーズが高まります。



## 事業領域と強み

高速・大容量化、  
低消費電力化が求められる中、  
材料技術をベースに  
光ファイバ、デバイス、  
機器へ多彩な製品を展開し、  
グループの総合力で貢献します。





## これからの事業環境

### 安定した通信品質を保ち 高速・大容量化へ

#### ● 5Gから6Gへ

→ 最大データ速度は現在の最大100倍に

#### ● ネットワークのオール光化が進展

→ 低消費電力化に向けてデータセンタ/機器内の光化が進展

#### ● データセンタの増設・小型化

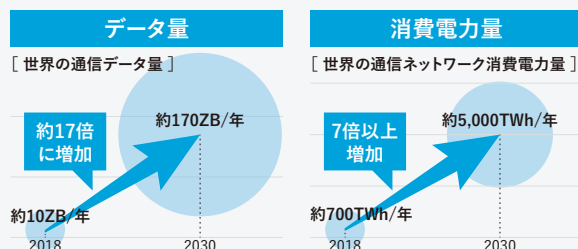
→ ネットワーク網の負荷軽減のため小型データセンタを増設

#### ● 非陸上への拡張

→ 海底や人工衛星を活用、世界のネットワーク網が更に拡張

### 世界のデータ量増加に伴い 消費電力増加

通信データ量の増大に伴い消費電力が増大。  
低消費電力化のニーズが高まる。



※データ量はデータセンタのIPトラフィックを使用

※技術革新がない場合

出典: 国立研究開発法人科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター  
「情報化社会の進展がエネルギー消費に与える影響vol.3 (2021年2月),  
vol.4 (2022年2月)」

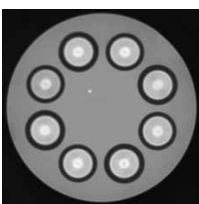
## 2030年への挑戦

大容量光通信、低消費電力、5G→6Gの進展に対して、幅広いソリューションを提供する  
オリジナリティのある材料、デバイス、機器の開発に挑戦します。

### 大容量光通信

#### 高速・大容量のマルチコア技術

##### ▶ マルチコア 光ファイバ



- 省スペース化
- 環境負荷低減
- 高度暗号伝送への応用

##### ▶ 大陸間海底用ソリューション



高効率光アンプ



融着接続機

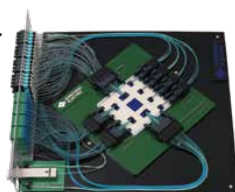
##### ▶ データセンタ用 ソリューションへの展開

マルチコア光ファイバ収納型  
多心ケーブル、光コネクタ、  
光配線機器など

### 低消費電力化

#### データセンタと社会/家庭を結ぶ オール光ネットワークの実現に 向けた光と電気の融合技術

##### ▶ 光電融合 配線



- 電気配線→光配線で  
省電力化(20~30%削減)

##### CPO (Co-Packaged-Optics)※

※光学系と電子スイッチングを  
単一基板上にまとめる実装技術

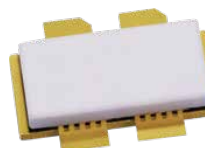
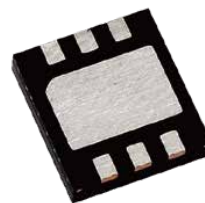
##### ▶ 光電融合 デバイス集積化

高速高効率レーザーを小型  
シリコンフォトニクス光回路  
と集積、オール光ネットワーク  
接続装置(オーケストレータ  
連携ソフト搭載)

### 大容量無線通信: 5G → 6G

#### 低消費電力の大容量通信と 広域カバレッジを 可能にする技術

- ▶ 基地局用GaNデバイスの  
高集積化: 固定基地局/  
空中基地局/衛星通信に対応

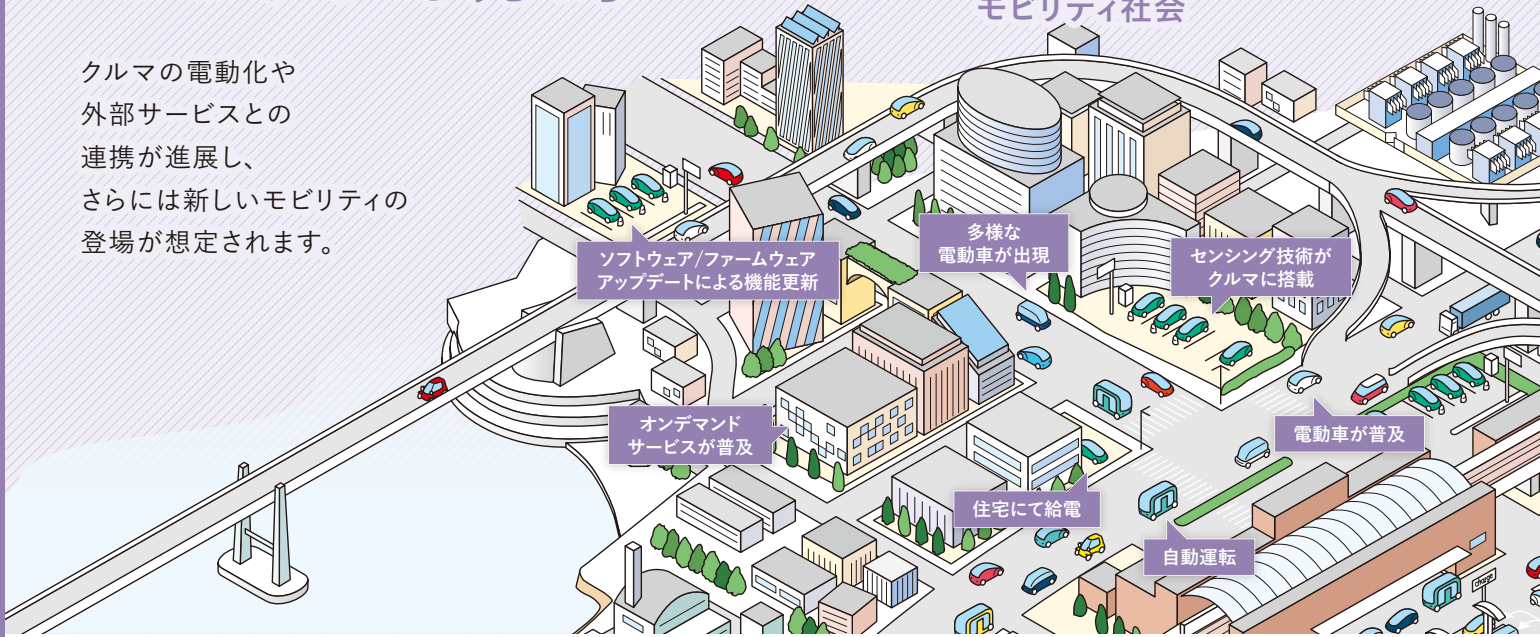


- ▶ 分散アンテナ用  
無線波光伝送モジュール

# モビリティ分野

クルマの電動化や外部サービスとの連携が進展し、さらには新しいモビリティの登場が想定されます。

当社が考える2030年のモビリティ社会


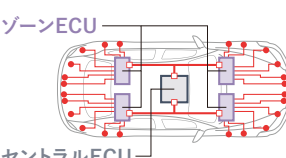



## 事業領域と強み

ワイヤーハーネスをコアとして、グローバルなモノづくり力と高度な技術・技能人材により新しい価値を提供します。

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 要素技術 | 材料技術・めっき技術・解析技術       |
| 設計技術 | お客様のニーズを先取りした設計       |
| 製造技術 | 自動化・グリーン化の推進、グローバル標準化 |

### ワイヤーハーネスの進化・モノづくりの革新

|  |   |  |
|--|---|--|
| 軽量・小型・省スペース化<br>アルミハーネス<br> | 車内ネットワークの高度化<br>ゾーンECU、拡張ECU<br>セントラルECU<br> | モジュール化<br>ECU/配線モジュール化<br> |
|--|---|--|

当社の技術革新

「パワートレイン・装備の多様化、情報化」ニーズに対応した高付加価値の提供  
 -モビリティの「つなげる」パートナーとして「つながる」技術で革新-

強み

グローバルなモノづくり力

高度な技術・技能人材

## これからの事業環境

### エレクトロニクス化と ニューモビリティ出現

クルマの電動化が進展し、また、次世代モビリティシステムへの取組みが加速

#### ● 電動化

→ 2030年にはICE車が減り、HEVやPHEVも含めた多様な電動車が新車販売台数の過半を占める

#### ● 自動運転

→ 2030年代にLevel 3以上の自動運転車普及

#### ● エマージングモビリティ

→ 超小型モビリティ、空飛ぶクルマなど多様化

### 外部サービス連携拡大 (コネクティッド)

MaaSに代表される移動サービスの拡大とクルマとサービスがつながるインフラ連携が加速

#### ● エッジ

→ 安全、メンテナンス、エンターテインメントなど、エッジとしてのクルマの情報化が進展

#### ● クラウド

→ 新しい都市インフラやオンデマンドサービスが拡大  
エッジ - クラウド間の連携が重要化

### 2030年への挑戦

モビリティの変化に対し、  
ハーネス等の従来製品の進化に加えて、エネルギー・情報通信など、  
グループの多彩な技術力を融合し、  
アーキテクチャの変革を含む、電動化・高速通信化に挑戦します。



|              | 電動化  | 従来製品   | 高速通信化  |
|--------------|--|--|--|
| ハーネス         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高圧ハーネス、電池内ハーネス</li> <li>● バスバーモジュール</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 低圧ハーネス</li> <li>● アルミハーネス</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高速通信ハーネス</li> <li>● 光ハーネス</li> </ul>              |
| 機器電線         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● モータ用高圧平角巻線</li> <li>● 電極リード線</li> <li>● 電池内モジュール配線</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電装品用巻線</li> <li>● プラグ用電極材</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高周波FPC</li> </ul>                                 |
| コネクタ・端子      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大電流コネクタ</li> <li>● 高圧JB</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● コネクタ</li> <li>● ジャンクションボックス(JB)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高速通信コネクタ</li> </ul>                               |
| ECU・G/W      |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ECU、ゲートウェイ(G/W)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ゾーンECU</li> </ul>                                 |
| 半導体・デバイス     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● SiCパワーデバイス</li> </ul>   |  |  |
| 機能材料         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● EV用スチールコード</li> <li>● 焼結接合部品(E-Axle用)</li> <li>● オイルポンプロータ(モータ冷却)</li> <li>● 多孔質金属材料</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● スチールコード</li> <li>● 焼結接合部品(AT/CVT用)</li> <li>● オイルポンプロータ(エンジン潤滑)</li> <li>● ばね線</li> <li>● エンジン部品</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ZnS遠赤外線レンズ</li> </ul>                             |
| 樹脂・ゴム製品、センサ他 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● バッテリー冷却ホース</li> <li>● モータマウント</li> <li>● バッテリー向け断熱材</li> <li>● 架橋フッ素樹脂</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ホース</li> <li>● 防振ゴム</li> <li>● 照射チューブ</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ステアリングタッチセンサ</li> <li>● ドライバモニタリングシステム</li> </ul> |
| インフラ連携       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 充電コネクタ/インレット</li> <li>● 蓄電池</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通管制システム</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 拡張ユニット</li> </ul>                                 |

# 注力3分野に貢献する高機能製品

これまで培ってきた素材技術をさらに進化させ、  
エネルギー・情報通信・モビリティを取り巻くインフラ・産業の発展を幅広く支えてまいります。

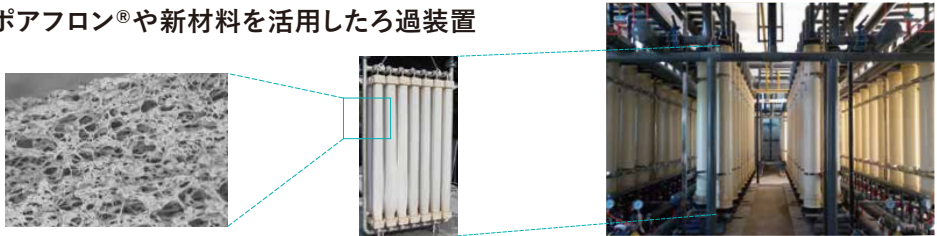
|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| <h2>高精度工具</h2> <p>高精度の加工を実現する製品群で様々な製造業を支えます</p> | <p>難削材・高硬度材の精密加工<br/>(切削工具)</p>  | <p>自動車・半導体などの高精度加工<br/>(研削砥石)</p>  | <p>自動車・半導体などの高精度伸線加工<br/>(ダイヤモンドダイス)</p>  |
| <h2>高強度材</h2> <p>様々な高強度の部材を提供し、社会・産業を支えます</p>    | <p>大規模構造物の補強<br/>(PC鋼材)</p>      | <p>複雑かつ高強度な構造部品<br/>(焼結製品)</p>     | <p>核融合炉の耐熱部品<br/>(タングステンモノブロック)</p>       |

# グリーン化への取組み

グリーンな社会の実現に向けて、製品・サービスによる貢献とともに、  
当社の技術を活かした様々な取組みを展開してまいります。

## 水資源の循環

環境を汚染しない排水処理、排水の再利用による循環、海水淡水化による水資源の有効活用

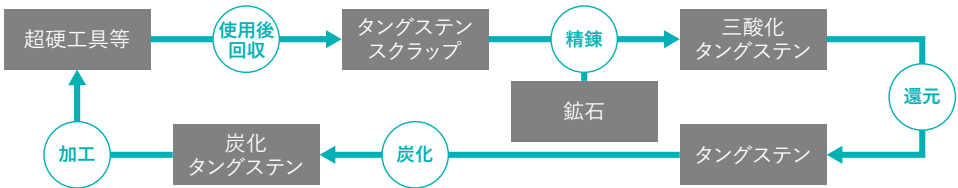


ポアフロン®や新材料を活用したろ過装置

## レアメタルの有効活用

タングステンをはじめとした限りある資源であるレアメタルのリサイクルを推進

### タングステンのリサイクルフロー



## CO<sub>2</sub>の削減

「省エネ」に最大限注力し、太陽光を中心とした「創エネ」への取組みを徹底した上で、未達分を「購エネ」で補完


### 当社のCO<sub>2</sub>削減目標

- 省エネ** ・エネルギー原単位低減
- 創エネ** ・太陽光発電導入  
・蓄電池により最大活用
- 購エネ** ・再生可能エネルギー購入

2030年目標はSBTi認定を取得

**2018年→2030年**

Scope 1+2 30%削減 / Scope 3 15%削減



# 4



## 基盤と目標

### ■ ビジョン実現への経営基盤

- 3つの資本 | 人的資本・知的資本・財務資本
- 3つの推進力 | 研究開発・サプライチェーン・モノづくり

### ■ 目標

# ビジョン実現への経営基盤

## 3つの資本

新たな価値創造のための  
強い組織づくり

変革の時代における  
新たな価値創造のために  
「人的資本」「知的資本」への  
投資を充実させ、  
成長と分配の原資として  
「財務資本」を充実させることで  
強い組織づくりを  
進めてまいります。

※人材育成、ダイバーシティ推進、  
グローバルリーダー育成等に関する  
当社グループの基本方針



### 人的資本

「グローバルHRMポリシー※」に基づき、あらゆる人材が  
活躍・成長・自己実現し、社会に貢献できる企業へ

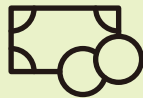
- 「ダイバーシティ&インクルージョン」の推進
- 成長と挑戦に重点を置く風土醸成
- グループグローバルでの総合力発揮



### 知的資本

コア技術から知的資本を生み出し、グローバルに  
管理・活用して「**長期的な事業競争力を創出**」

- 事業競争力につなげる知的財産戦略
- グローバルな知的財産ネットワークの管理
- グローバルなルール制定への貢献



### 財務資本

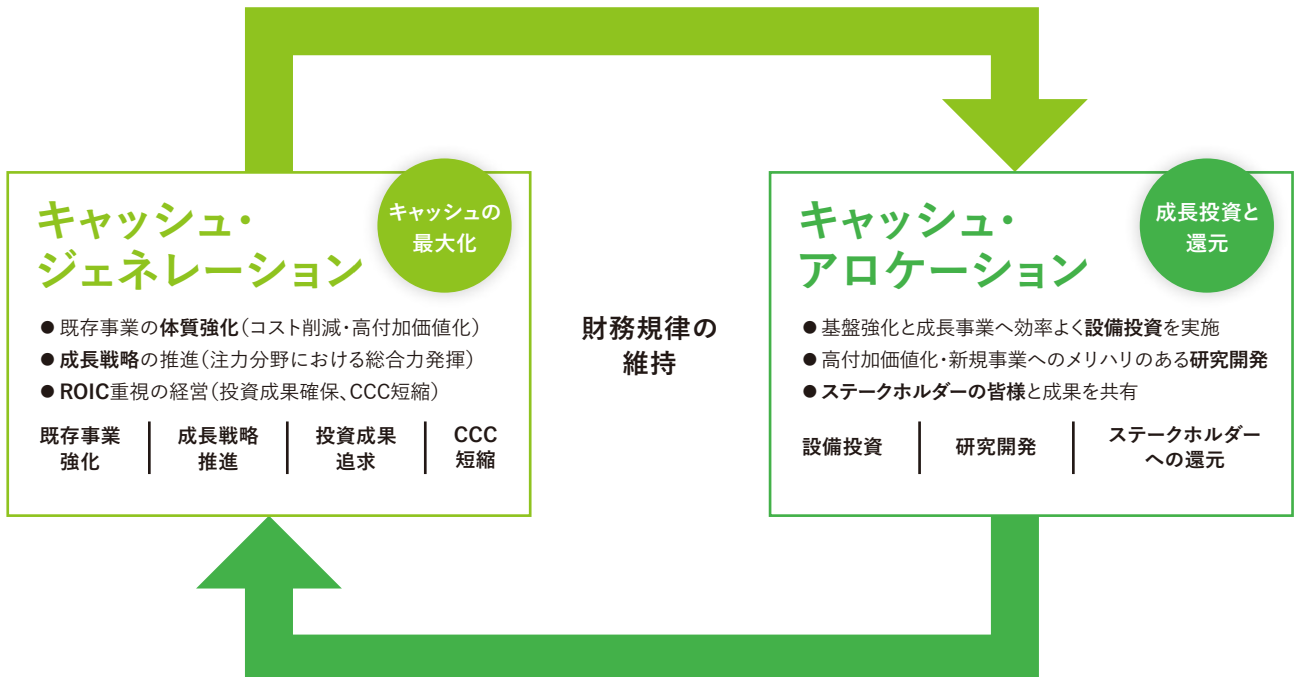
成長と分配の原資として最大限に「**キャッシュを創出**」し、  
次なる成長への投資とステークホルダーへの還元

- 体質強化、成長戦略、ROIC経営によりキャッシュを創出
- 効率よく設備投資、研究開発に投資
- ステークホルダーの皆様へ成果を還元

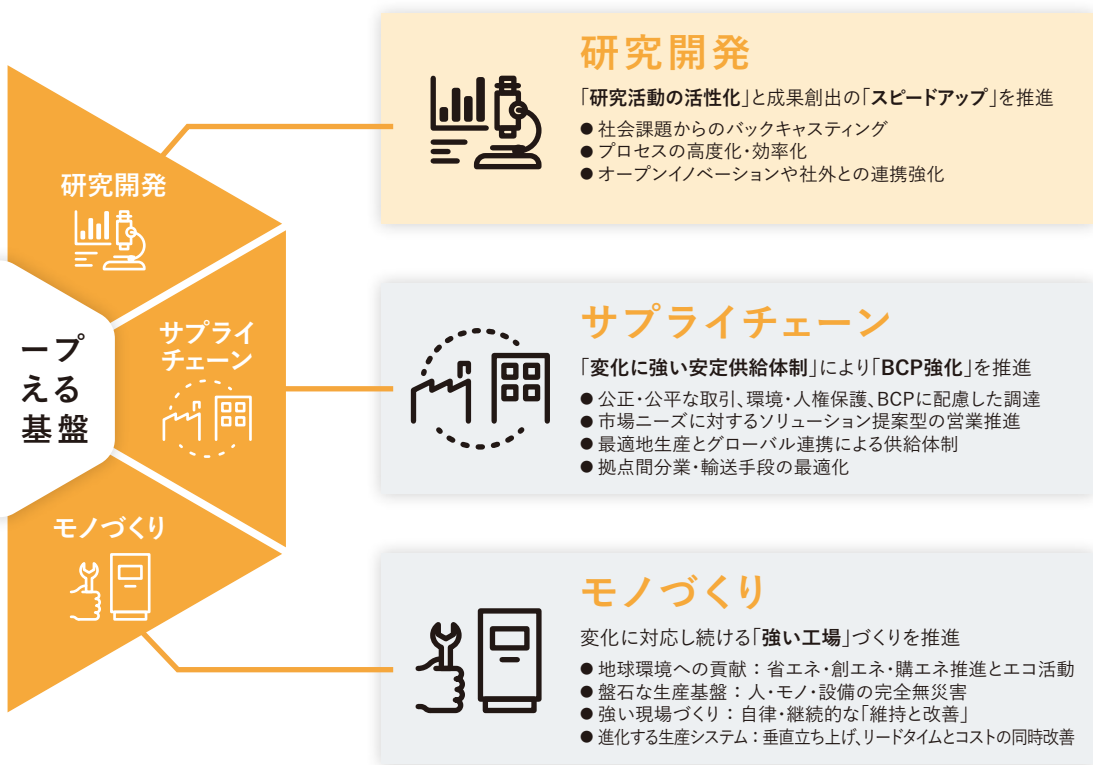


## 財務資本

成長と分配の原資としてキャッシュフローを最大化し適切に配分



不確実・非連続な変革の時代においてビジョンを実現するために、「的確・迅速・柔軟」に変化に対応できる、強い組織づくりを進めます。そのために、3つのグループ共有資本の充実を図るとともに、3つの推進力の強化に取り組み、グループシナジーを最大限発揮してまいります。



## 3つの推進力

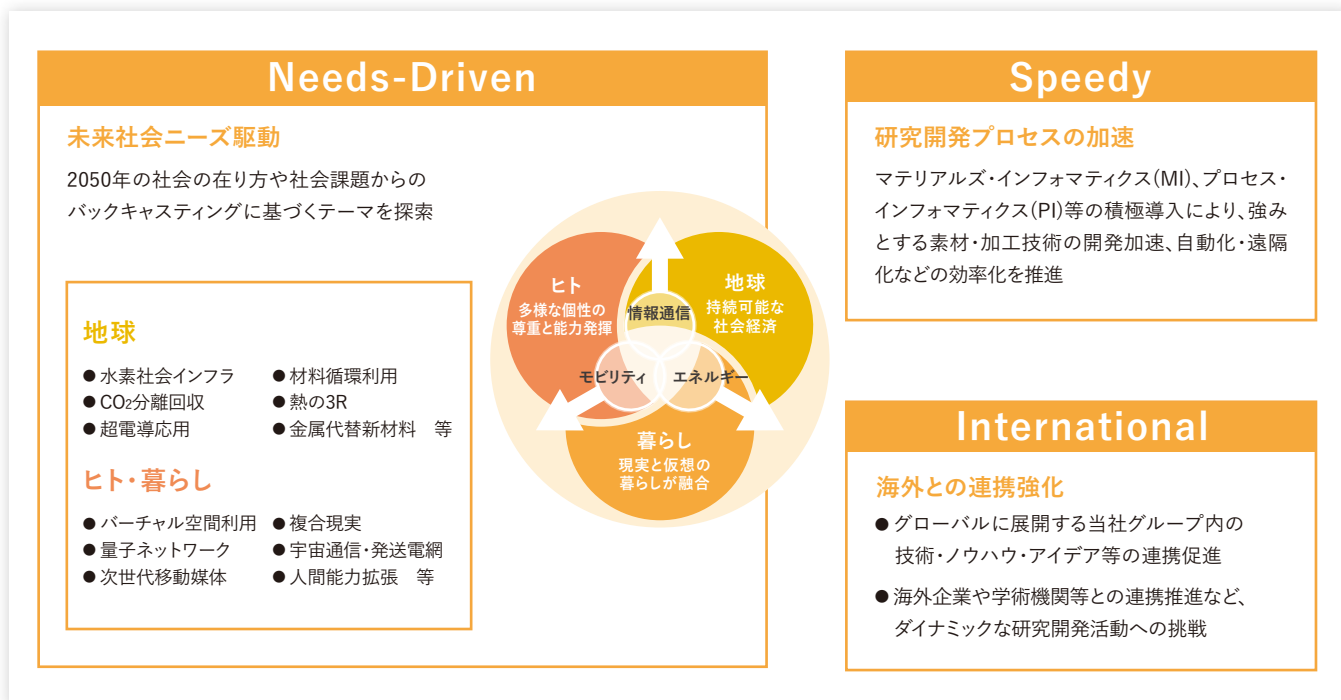
製造業の要である  
3つの要素

変化に強い組織づくりのため「S・E・Q・C・D・D※」をさらに深化させ、特に製造業の要である「研究開発」「サプライチェーン」「モノづくり」の3つの推進力を強化してまいります。

※(S) Safety / (E) Environment / (Q) Quality / (C) Cost / (D) Delivery / (D) Development

## 研究開発

多様な技術創出の「要」となる研究開発の活性化・スピードアップ



### Needs-Driven

#### 未来社会ニーズ駆動

2050年の社会の在り方や社会課題からのバックキャスティングに基づくテーマを探索

#### 地球

- 水素社会インフラ
- CO<sub>2</sub>分離回収
- 超電導応用
- 材料循環利用
- 熱の3R
- 金属代替新材料 等

#### ヒト・暮らし

- バーチャル空間利用
- 量子ネットワーク
- 次世代移動媒体
- 複合現実
- 宇宙通信・発送電網
- 人間能力拡張 等

### Speedy

#### 研究開発プロセスの加速

マテリアルズ・インフォマティクス(MI)、プロセス・インフォマティクス(PI)等の積極導入により、強みとする素材・加工技術の開発加速、自動化・遠隔化などの効率化を推進

### International

#### 海外との連携強化

- グローバルに展開する当社グループ内の技術・ノウハウ・アイデア等の連携促進
- 海外企業や学術機関等との連携推進など、ダイナミックな研究開発活動への挑戦

# 目標—中長期的な企業価値向上へ

環境、人材、コンプライアンスを重視する企業風土のもとで成長性と効率性を同時に高め、グロリアスでエクセレントな企業集団を目指してまいります。

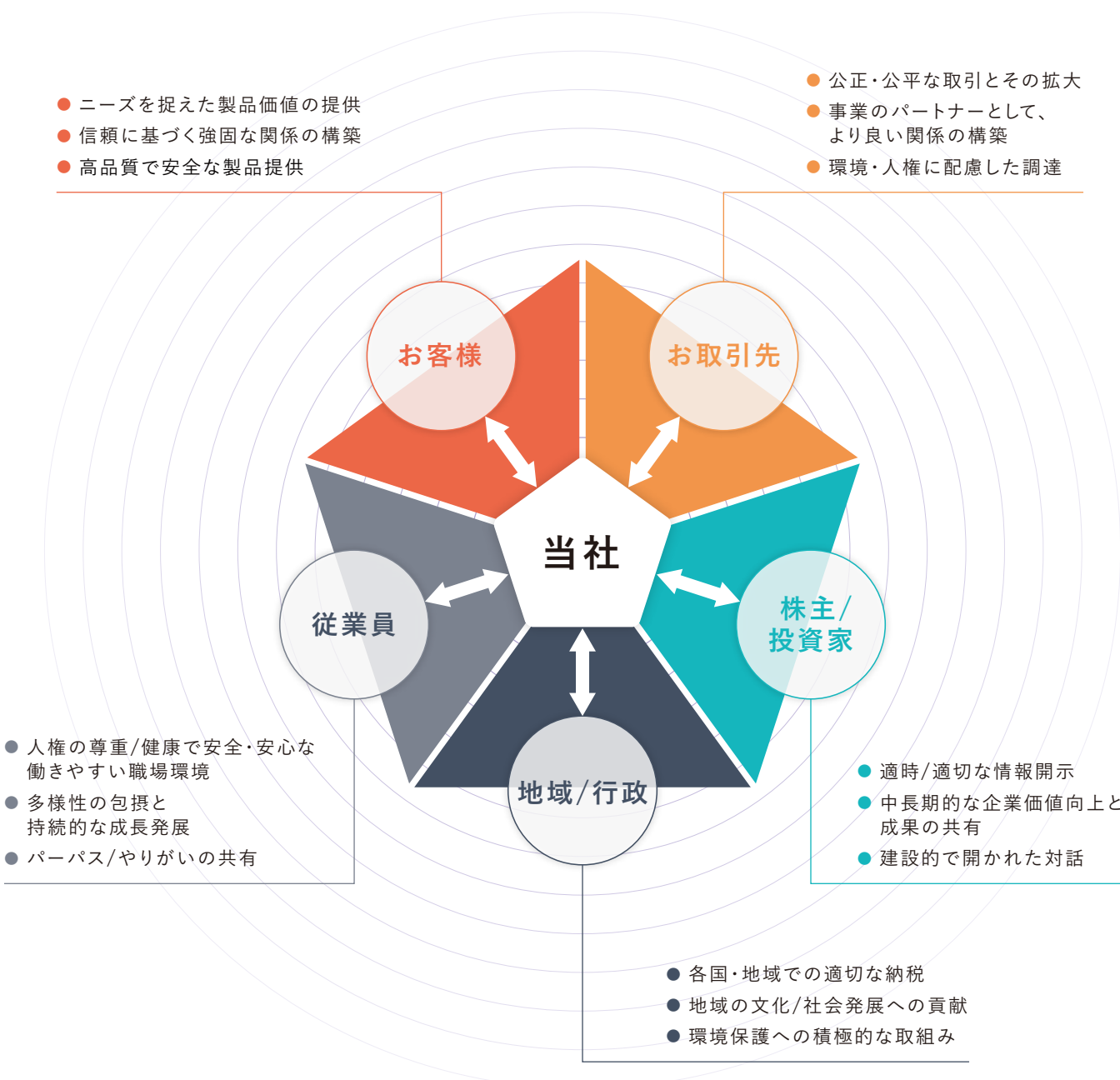
| Glorious |   |   |
|----------|---|---|
| 非財務      | E | <b>地球環境</b><br>CO <sub>2</sub> 排出量削減<br>2030年 [Scope 1+2] 30% [Scope 3] 15%<br>(18年度比)<br>2050年 [Scope 1+2] カーボンニュートラル<br>などの様々な取組み |
|          | S | <b>ダイバーシティ&amp;インクルージョン</b><br>多様な視点・経験・技術の融合により、<br>新たな価値を創造   |
|          |   | <b>エンゲージメント</b><br>企業価値創造への共感と貢献への実感  |
|          | G | <b>コンプライアンス</b><br>法令・企業倫理の遵守をサプライチェーン含め<br>グローバルに徹底  |

| Excellent |    |   |
|-----------|----|---|
| 財務        | 成長 | 連結売上高5兆円以上<br>エネルギー・情報通信・モビリティの注力3分野で1兆円以上の拡大 |
|           | 効率 | 税引前ROIC 10%以上<br>(高付加価値化・収益構造改善)              |



# ステークホルダーの 皆様とともに

私たち住友電工グループは「実行する集団」として、  
「グリーンな地球と安心・快適な暮らし」の実現に向けて取り組み、  
サステナブルな社会を目指してまいります。  
そして、その価値観と成果をステークホルダーの皆様と  
共有してまいります。



「グリーンな地球と安心  
これからも私たちは

・「快適な暮らし」づくりに  
技術で挑戦し続けます





<https://sumitomelectric.com/jp/>